

海外安全対策情報（2017年10月～12月：ナミビア）

1 治安情勢及び一般犯罪の傾向

最新の犯罪統計によると、首都ウィントフックが位置するコマス州での犯罪発生件数はナミビア全体の4割で、その内98%は首都ウィントフックで発生している（ナミビア警察発表統計：<http://www.nampol.gov.na/>）。また国境付近、特にアンゴラとの国境を接する北部のオハングエナ州では、近年アンゴラの経済悪化の影響から、同州の経済状況も悪くなり、犯罪件数が増えている。

首都ウィントフックで発生している車上荒らし（スマッシュアンドグラブ）や住居不法侵入においては、犯行時、犯行グループが銃器を所持している場合もあることから、身の安全を最優先とし不必要な抵抗は避けた方が良い。なお、ナミビア警察からの情報によると、犯罪者はグループのケースが多いがプロの集団のケースは少なく、多くは貧困層の素人集団である。

2 外国人に対する犯罪の事例

（1）11月4日、夜9時頃、我が方大使館から北へ約40km、フランス人農家2名の自宅で住居侵入強盗事件が発生。3人組の目出し帽を被った賊はフェンスを破り敷地へ侵入し、鉄格子のない窓ガラスを破り住居内へ侵入。賊は大型ナイフ（Panga）でフランス人農家2名を脅し、殴打し、現金や金品類を奪い逃走した。

（2）11月7日、深夜0時頃、我が方大使館から西へ約300kmの海岸地域であるWalvis Bayへ向かう道路で、観光客が巻き添えとなる交通死亡事故が発生した。事故の原因はカーブでのスピードの出し過ぎによるもので、ツアー会社職員が運転する日産バギーが横転し、運転していたナミビア人が死亡、乗客のフランス人、ドイツ人及びイギリス人の3名は軽傷であった。

（3）11月7日、夜8時頃、我が方大使館から北へ約2kmの場所で、JICA邦人職員5名（内1名は当地JICA邦人職員）が、JICAオフィスから夕食会場のレストランへ向かうため、800m程の距離を徒歩で移動していたところ、5～6人のギャング集団に襲われた。賊はナイフで邦人らを脅し、邦人らが所持していたバッグを強奪し逃走した。被害は公用旅券、携帯電話、クレジットカード、運転免許証、身分証明書等であった。事件発生から5日後、大使館から北西約10kmの貧困層居住地区で、公用旅券や身分証明書等が発見された旨、拾得された方より当館へ連絡が入り、拾得者が拾得物一式を最寄りの警察署に届けた旨報告を受けた。報告を受け、拾得物一式が当地警察の観光客専用窓口に転送されたことを確認後、当館にて公用旅券等拾得物一式を回収し、被害者らへ返却をした。

(4) 11月9日, 当地ホセアクタコ国際空港から首都ウイントフックへ向かう途中の道路で, 26才のポルトガル人観光客が被害者となる交通死亡事故が発生した。被害者女性含む旅行者らは, 空港から首都ウイントフックへ移動中, 道路で亀を発見し, 車を路肩に止め降車した後, しばらく亀の見物をしていた。見物を終え, 被害者女性は車に戻ろうとしたところ, 走行中の車に轢かれ, まもなく死亡した。被害者女性は, 父親や友人らと旅行中であった。

(5) 11月10日, 午前9時頃, 我が方大使館から北へ約20kmのBrakwater地区で, 中国人宅で住居侵入強盗事件が発生。5人組の犯行集団(内1名は制服を着用したウイントフック中央警察署の警察官)は職務質問として警察証を提示し, 在宅中の中国人に扉を開けさせた後, 扉を開けた37才の中国人男性に手錠をかけ, 同居していたもう1名の女性を縛り上げ, 現金500,000NAD(日本円500万円相当)と中国紙幣, 宝石類, カメラ, 時計, 銃器等を強奪し逃走した。事件発生から翌週, 現職警察官1名含む犯人らは逮捕された。

(6) 12月13日, 午後5時30分頃, 我が方大使館から西へ約2kmのKlein Windhoek地区, Fidel Castro Streetでドイツ人観光客に対する車上強盗事件が発生。被害者のドイツ人男性が車でホテルに向かう途中, 信号待ちで停車していたところ, 犯人の男が車後方のガラスを割り, 後部座席に置いてあった被害者のバッグを奪い逃走した。被害はバッグに入っていた数点の衣類。

(7) 12月13日, 夜8時20分頃, 我が方大使館から西へ約1.5kmのIndependence Avenue通り付近, 走行中のタクシー車中で拳銃強盗事件が発生した。被害者の当地Unam大学へ通う40才ケニア人大学生は帰宅のため, 路上でタクシーを拾い, 別の乗客2人が利用していた相乗りタクシーに乗車した。しばらく走行した後, タクシー運転手と別の乗客2人は, 所持していた銃で被害者の学生を脅し, 現金1,400NAD(日本円約1万4千円)と携帯電話, パスポートを強奪し, 被害者を車外へ放り出し, 同タクシーで逃走した。タクシー運転手と乗客は共犯であった。

(8) 12月15日, 夕方4時20分頃, 我が方大使館から北へ約400kmのエトローシャ国立公園付近で, ドイツ人女性に対する車上強盗事件が発生した。車を運転していた被害者のドイツ人女性が信号待ちで停車しているところ, 犯行グループの一員と見られる女性が運転席側から被害者女性に接近し, 道を尋ねて被害者の注意をそらしている隙に, 共犯とみられる実行犯の男が助手席のドアを開け, 助手席に置いてあった被害者女性のバッグを強奪し逃走した。被害はバッグの中に

入っていたCanon製カメラと現金13,600NAD（日本円約13万6千円）。実行犯の男は被害者のバッグを強奪した後、銀のカロラで逃走した。

（9）12月16日、我が方大使館から北西約250kmのKlein Brandberg Mountainsで、37才のアメリカ人観光客が行方不明となった。行方不明となった男性が最後に目撃されたのは、12月15日（金）の朝、登山のためレンタカーを駐車場に止めたところで、夜になっても男性のレンタカーが放置されているのを不審に思った周囲の住人が警察に通報し事件が発覚した。警察はヘリコプターを利用する等して、捜索活動を行っているが、男性は未だに見つかっておらず、捜索活動は現在も続いている。Klein Brandberg Mountainsは、過去数年で3名の行方不明者が発生しており、観光地として楽しむにはリスクが高いとされている。

（10）12月18日、午後6時00分頃、我が方大使館から約3kmのDorado Park地区、Bandting Streetで外国人に対する路上強盗事件が発生。被害者の西洋人男性（国籍未確認）は、宿泊先のロッジに向かい徒歩で移動中、突然男に襲われ所持していた手提げ式バッグを強奪された。被害はバッグの中に入っていたノートパソコン。

3 薬物・危険ドラッグについて

薬物や危険ドラッグ等の密輸に際して経由地として当国が利用されていることもあるが、ナミビア人によるドラッグの使用率はそれ程高くない。ただし、一部のバーではマリファナを使用している者が出没しているという情報もあるため、事件に巻き込まれない様に、夜間のバーやクラブは近寄らないことが肝要である。

4 交通事故

当地で発生する交通事故発生の主な原因は、スピードの出し過ぎや個人の不注意が大半で、直線で片側一車線という道路も大きな要因のひとつ。高齢者や初心者が車の流れを読まずにゆっくり運転している場合や幹線道路で大型トラックが低速で走っている場合、あるいは前方を良く確認せず無謀に追い越すなどの運転により事故を起こすケースが多い。また、飲酒運転手の事故に巻き込まれないよう、注意する必要がある。

5 テロ・爆弾事件発生状況

当該事件の発生は認知していない。

6 誘拐・脅迫事件発生状況

当該事件の発生は認知していない。

7 対日感情

ナミビア人の日本人に対する感情は良好。

8 日本人安全対策のためにとった具体的措置

在留邦人へのお知らせの発出

○10月23日付, 在ナミビア大使館からの注意喚起

○11月24日付, 年末年始に伴う犯罪増加：注意喚起

○12月21日付, ナミビアにおけるE型肝炎発生に関して（了）